

月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

567号 令和5(2023)年10月

豊川河口域のアサリ稚貝の発生状況

豊川の河口域では、例年大量のアサリ稚貝が発生します。漁業者はこれらの稚貝を県内のアサリ漁場へ移植放流し、1~2年間大きく成長させた後に漁獲しています。当グループでは、発生する稚貝の資源量や成長を把握するため、稚貝の生息密度と殻長の推移を調査しています。本年度の調査では、5月までは、平年よりも密度が低めではあったものの、アサリ稚貝は順調に成長していました(図1)。

ところが、6月2日に東三河地方で400mmを超える降雨で土砂が堆積し(図2)、6月6日の調査ではアサリ稚貝の密度の減少がみられました。その一方で、出水後に着底したと思われる殻長0.2~0.3mmの微小な稚貝が1,200個体/m²の密度で分布していることも確認できました。

水産試験場では、その後もアサリ稚貝の調査を継続しており、アサリ稚貝の密度は次第に増加し、成長が見られました(図1、図3)。今年度は一色干潟にもアサリ稚貝が発生していますので(令和5年8月水試ニュース565号)、両地区のアサリ資源を有効に活用することによって、アサリ資源の回復と漁獲量の増加につながることを期待しています。

今後も豪雨など自然災害の影響が考えられますので、状況に応じた調査を行っていきます。

漁場環境研究部 漁場改善グループ

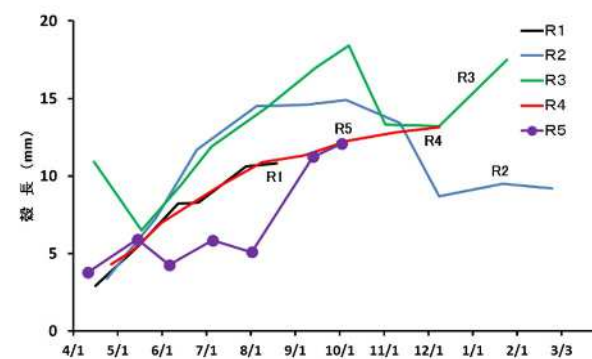


図1 豊川河口域におけるアサリ稚貝の成長



図2 豊川河口域に堆積した土砂



図3 出水後に着底し、成長した稚貝(9月13日)

のり養殖の季節を迎えて — 今秋の水温動向 —

企画情報部企画普及グループ

のり養殖において、養殖開始となる海への網の張り込みは水温 23℃未満が目安となっています。そのため、水温の動向に注意を払いながら、張り込むタイミングを見極める必要があります。図4は、三河湾内にある水産試験場の自動観測ブイ3基の平均水温(水深3.5m層)を、図5は漁業生産研究所地先(南知多町)の水温をグラフに示したものです。

9月になっても残暑が厳しく、海水温は平年を2~3℃上回る状況が続いてきました。最近になって大きく水温が下降し、三河湾内(ブイ平均)は平年並みで推移しています。一方、漁業生産研究所地先は、三河湾同様に高水温が継続してきましたが、最近になって平年以下まで水温が低下しました。東海地方の3か月予報(9月19日気象庁発表)では、気温の高い確率が10月は50%、11月は40%の予報となっています。健全な種網の確保に重要な育苗期における水温降下の停滞が懸念されますので、張り込みのタイミングや張り込み後の網管理に例年以上の注意が必要です。

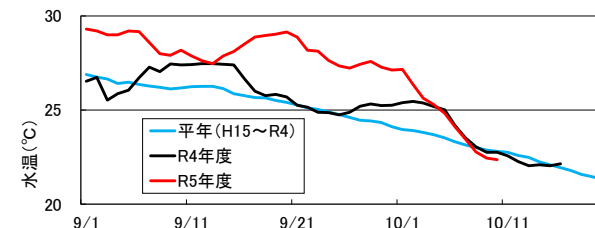


図4 自動観測ブイの水温推移(3基の日平均)

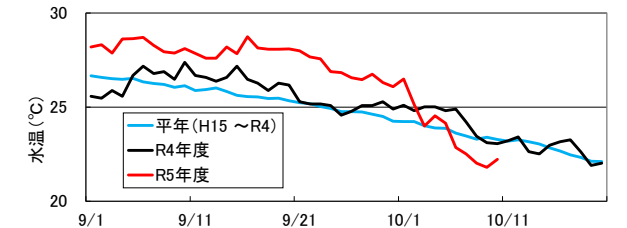


図5 漁業生産研究所地先の水温推移(10時計測)

金魚日本一大会で「金魚飼育相談コーナー」を開設します

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

日本有数の金魚産地である弥富市で「金魚日本一大会」が下記のとおり開催されます。

この大会は、全国の金魚生産者や愛好家が育てた自慢の金魚を持ち寄り、審査員が色や体型など10項目で採点、順位付けする品評会です。普段見ることがないような大きさや珍しい金魚がたくさん集まりますので、大人も子供も存分に金魚を楽しんでいただけるイベントです。

当グループは消費者や愛好家のトレンドを把握し、今後の品種開発等に生かす貴重な機会として毎年参画しています。

また、当日は会場内で金魚の飼育に関する質問にお答えする相談コーナーを開設しますのでお気軽にお立ち寄りください。

記

1 開催日時：10月22日(日)午前10時~午後3時

2 開催場所：海南こどもの国(入園料・大会見学は無料)

※台風など荒天により、直前での中止や日程変更となる場合があります。開催の有無は主催者である弥富金魚漁業協同組合(電話 0567-65-1250)までお問い合わせください。



図6 昨年の会場の様子



図7 大会ポスター

